

「独創的な橋渡し研究支援拠点へ」

プログラム(受付 12:30~)

【第1部】5階小ホール2・ライブ配信(ハイブリッド開催)

13:30-13:35 開会挨拶

13:35-13:50 藤田医科大学拠点の活動紹介

藤田医科大学 学長／拠点長 岩田 伸生

13:50-14:30 特別講演①「新たな橋渡し研究支援機関『学校法人藤田学園』への期待」

I. 文部科学省 研究振興局 ライフサイエンス課 課長 倉田 佳奈江

II. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 PO 稲垣 治

座長: 藤田医科大学 橋渡し研究統括本部 拠点統括 佐谷 秀行

<休憩15分>

14:45-15:45 特別講演②「世界初の医療技術を患者に届ける橋渡し研究への挑戦」

I. 株式会社レストアビジョン 代表取締役社長CEO 堅田 侑作

II. 藤田医科大学 医学部 教授 渡辺 宏久

藤田医科大学 産官学連携推進センター センター長 斎藤 邦明

座長: 藤田医科大学 治験・臨床研究支援センター センター長 近藤 征史

15:45-16:00 閉会挨拶

【第2部】8階展示場 801-804(現地開催のみ)

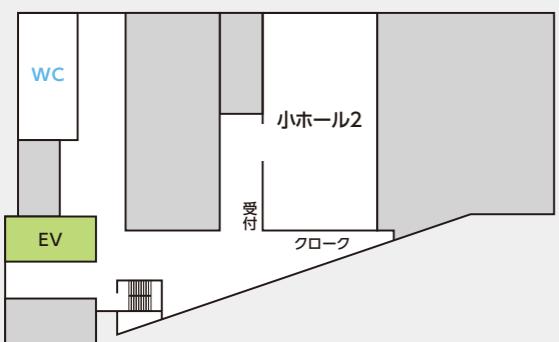
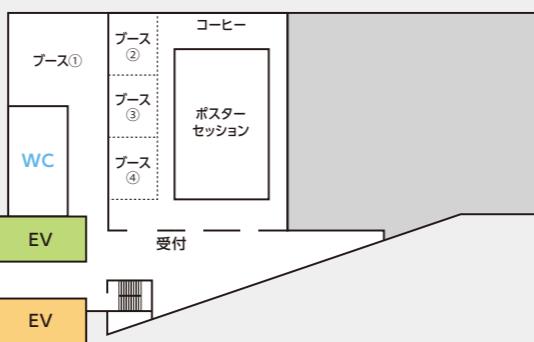
16:15-17:45 ポスターセッション 発表時間／奇数番号: 16:15-17:00、偶数番号: 17:00-17:45

16:15-18:45 研究相談会(事前登録制) ブース①～④

【意見交換会(懇親会)】5階小ホール2

18:00-19:30 参加費/3000円(学生無料)

フロア案内

5F 小ホール2
(講演・意見交換会)8F 展示場 801-804
(ポスターセッション・研究相談会)低層階
エレベーター※5階小ホールへお越しの際は、低層階用エレベーターをご利用ください。
なお、高層階用エレベーターは5階には停まりませんので、ご注意ください。

TRANSLATIONAL RESEARCH SYMPOSIUM

第1回

橋渡し研究支援機関 学校法人藤田学園

橋渡し研究シンポジウム

TRANSLATIONAL RESEARCH SYMPOSIUM 2025/12/9

TUE WINC
AICHI



FUJITA ACADEMY
CENTER FOR ADVANCING
TRANSLATIONAL RESEARCH

藤田医科大学が創る新たな橋渡し研究支援拠点～独創的な拠点へ～

私たち藤田学園は、創設者が基礎医学の研究者であったことから、研究成果を臨床へ還元し、社会に貢献することを使命としてまいりました。その精神は、まさに基礎から応用、社会実装へとつなぐ「橋渡し研究」の理念と軌を一にするものです。本学は2024年11月に文部科学省より「橋渡し研究支援機関」として認定を受けました。これは、本学が長年培ってきた研究力と臨床力の融合をさらに加速させる新たな一步であります。本シンポジウムを通じて、全国の研究者・医療機関の皆様との連携を深め、異分野の知を結集することで、新たな医療技術の創出と社会実装を推進してまいります。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

藤田医科大学 学長／
橋渡し研究統括本部 拠点長



岩田 伸生

藤田医科大学
橋渡し研究統括本部 拠点統括

佐谷 秀行

「藤田医科大学拠点の活動紹介」概要

学校法人藤田学園は、2024年11月に文部科学省より全国で12番目の橋渡し研究支援機関として認定されました。Fujita VISION 2030「世界一独創的な研究拠点へ」のもと、愛知(豊明)と東京(羽田)の2拠点で活動を展開しています。C-DAM(先端医療開発コンソーシアム)との連携を基盤に、地域に限定しない、機動的な研究支援を推進し、学内外の医療・薬学・工学・情報学など多様な分野のシーズを発掘・育成しています。また、日本一の病床数を有する藤田医科大学病院での臨床研究を通じ、先端医療技術の社会実装を目指しています。さらに、機動的なガバナンスと専門人材の育成を進め、産学官連携、スタートアップ支援、創薬基盤構築など、多方面から橋渡し研究を推進しています。基礎から実用化・事業化まで、All Fujitalによる一貫した支援体制を構築し、次世代医療技術の創出に挑戦しています。



藤田医科大学
橋渡し研究統括本部
ホームページURL：
<https://www.fujita-hu.ac.jp/-ftrh/>



特別講演①「新たな橋渡し研究支援機関『学校法人藤田学園』への期待」

I. 創薬力向上に向けた文部科学省の取組と橋渡し研究支援機関への期待

講演概要 近年、低分子医薬品に加え、バイオ医薬品、再生・細胞医療、遺伝子治療などモダリティの多様化が進み、海外では大学やスタートアップが牽引する水平分業型の創薬モデルが主流となっています。こうした国際的な潮流の中、我が国の創薬力の向上に向けて、文部科学省としても、絶え間ない創薬シーズの創出・育成を目指した基礎研究の充実や、実用化を目指す研究開発への橋渡しを支援する取組の強化などを進めており、本講演ではこうした背景や具体的な施策を紹介します。

文部科学省 研究振興局
ライフサイエンス課 課長



倉田 佳奈江

II. AMEDにおける橋渡し研究支援機関育成 / 認定の経緯

講演概要 医療分野での橋渡し研究とは、大学等の高度かつ先進性の高い基礎研究成果を具体的な試験物(シーズ)として開発し、非臨床研究から臨床試験を経て医療実装につなげる一連の活動ですが、実施にあたって薬事や試験物製造、あるいは臨床試験実施に長けたスタッフの支援が求められる研究分野です。そのため2007年より橋渡し研究支援推進プログラム等で橋渡し研究を推進支援する拠点機関の育成事業が展開され、2022年に「橋渡し研究支援機関認定制度」へと変更されました。藤田医科大学は認定制度開始以降、新たに橋渡し研究支援機関に追加認定された唯一の大学です(2025年8月時点)。橋渡し研究推進の拠点機関の育成および認定に係るAMEDの活動経緯を紹介し、併せて藤田医科大学での橋渡し研究支援に対する期待について述べさせていただきます。

国立研究開発法人
日本医療研究開発機構 PO



稻垣 治

特別講演②「世界初の医療技術を患者に届ける橋渡し研究への挑戦」

I. アカデミアからスタートアップ、そして臨床へ：視覚再生遺伝子治療の橋渡し研究の実際

講演概要 視覚再生を目指す遺伝子治療薬RV-001は、名古屋工業大学での光遺伝学の基礎研究を起点に、慶應義塾大学医学部での非臨床・臨床応用研究、さらにアカデミア発スタートアップによる事業化を経て、治験開始に至った日本発の革新的シーズです。本講演では、大学発技術を社会実装に結びつける過程で直面した研究開発、薬事・倫理対応、資金調達、治験実施体制の構築といった実務的課題とその解決策について、具体的な実例を交えてご紹介します。アカデミアから臨床応用を目指す橋渡し研究の実際をご関心のある方々に共有できれば幸いです。

株式会社レストアビジョン
代表取締役社長CEO／
慶應義塾大学 医学部
眼科学教室 特任講師

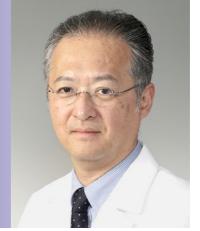


堅田 侑作

II. 世界初のATP増強とミトコンドリア保護によるパーキンソン病の病態改善・抑止療法開発を目指して

講演概要 パーキンソン病(PD)では、症状改善薬は多数利用可能ですが、治療の長期化に伴い副作用が出現し、疾患の進行を防ぐことも出来ません。私達は、PDではATPを产生するミトコンドリア異常を広範に認めることから、ATPリサイクルの中心物質ヒポキサンチン(Hy)の増強が創薬につながるのではと着想し、Hyの上流物質イノシンと、Hyを分解するキサンチン酸化還元酵素の阻害薬を組み合わせて投与したところ、血中Hy濃度は著明に増加し、先行臨床研究でPD症状の改善も確認しました。現在、AMED難治性疾患克服研究事業に採択され、藤田医科大学病院で医師主導型臨床治験(PIb)を推進しています。

藤田医科大学
医学部 脳神経内科学 教授



渡辺 宏久